

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

【全体概要】

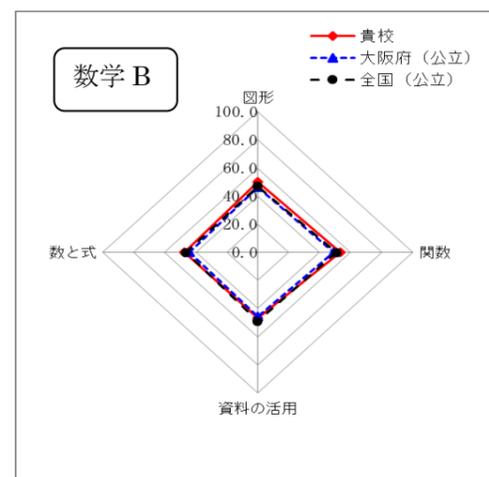
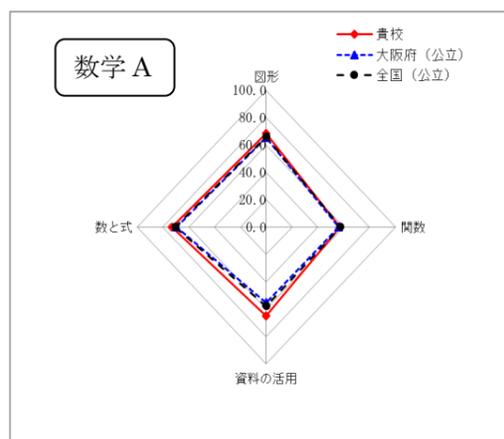
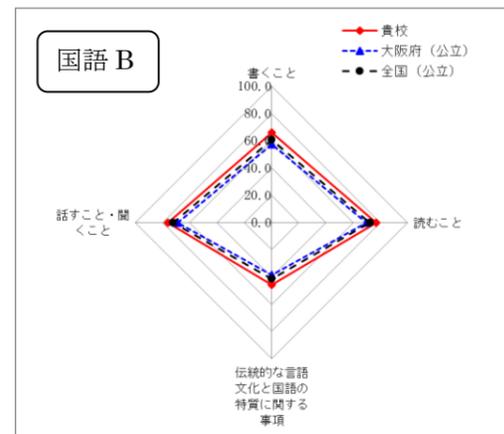
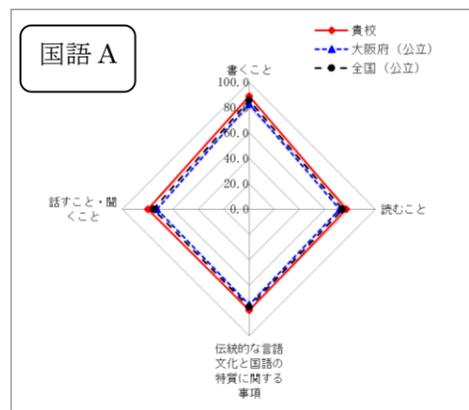
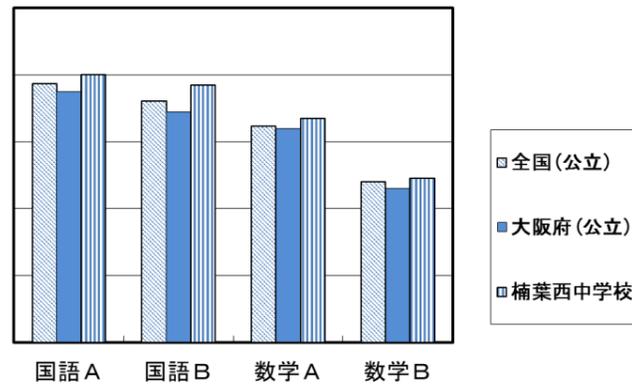
枚方市立楠葉西中学校

文部科学省が今年4月に実施した平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について、保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、今年度は、全国を基準とした経年推移によって、本校の学力や学習の状況をお知らせするものです。引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

平成29年度全国学力・学習状況調査(楠葉西中学校)



<学力調査結果の概要>

○国語 A について

9-2の「漢字を書く」ことが全国平均・大阪府の平均と比べて低かった。同様に、9-1・3も全国平均・大阪府の平均と比べて大きな差はない。平均を上回ったものは、9-6「楷書と行書の違いを理解する」問題であった。

「漢字を書くこと」が、他の問題と比較しても正答率の低さが目立つが、「楷書と行書の違い」は多くの生徒が理解していた。

○国語 B について

1-2「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」こと、3-3「必要な情報を集めるための見通しをもつ」こと、5-1「文章の構成を工夫してわかりやすく書く」ことが全国平均・大阪府の平均を上回った。本文の内容を読み取り、ふさわしいものを選ぶこと、自分の意見の理由を明らかにして述べることは良くできている。3-3に関しては、生徒質問用紙(58)～(62)の「授業で話し合うこと」「考えが分かるように工夫して発表すること」が「できていた」と考えている生徒の割合が全国平均・大阪府と比べても高い数字であることが、結果を表している。これは、授業の中で、意見を発表する機会や、自分の意見をまとめること、それを発表する機会を設けたためと考えられる。教材の取り組みだけでなく、その作品から発展させた文章を想像して書くことなどに取り組んでいる。その文章をお互いに鑑賞しあうことで、よりよい文章の書き方に自発的に気づくことができた。

○数学 A について

領域別・観点別・問題形式別において、すべて全国・大阪府の平均正答率を超えた。特に資料の活用についてはかなり高い正答率となった。

問題別に見ると、数と式では、おおむね良くできているが、2(3)(4)のように、基礎計算で正答率が全国・大阪府ともに下回る結果となる問題もある。関数については、10(2)(3)の比例・反比例、11(2)13の1次関数の問題で正答率が低く、比例定数や変化の割合の意味の理解に課題があった。

○数学 B について

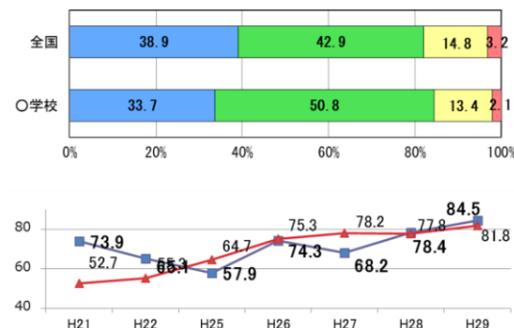
領域別・観点別・問題形式別において、ほとんどの区分で全国・大阪府の平均正答率を超えた。ただ、資料の活用は2.4ポイント、記述式の問題では1.3ポイント全国平均下回る結果となった。問題別に見ると、4(1)(2)の三角形の合同を利用して証明や図形の性質を用いて角度を求める問題に成果があった。2(3)文字式の説明、3(2)グラフを読み取って説明する、5(3)グラフをもとに資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するなど、数学的に事柄が成り立つ理由や問題解決の方法や判断の理由を説明する記述問題に課題があった。

質問紙調査の結果

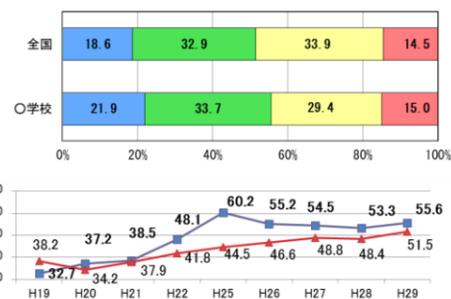
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



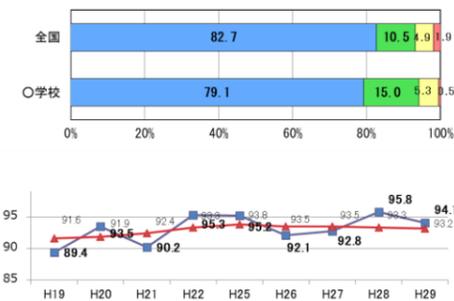
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う



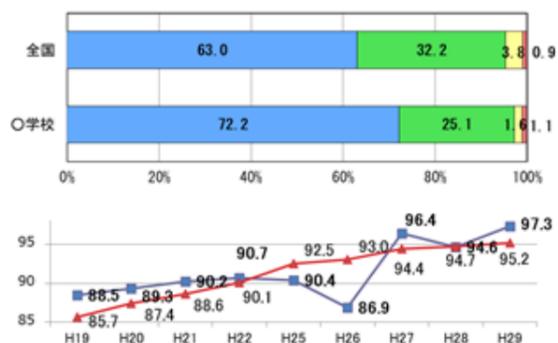
自分で計画を立てて勉強している



朝食を毎日食べている



学校の規則を守っている



<まとめ>

学習面は、全国・大阪府の平均を上回っており、小学校6年時の調査と比べても伸びが見られる。成果の部分でも述べているが、授業の内容が良く分かるという生徒が多い結果である。新しい学習要領を見据えた学習形態の取り組みは、本年度から全校的に取り組んでいる。またこの項目では現れていないが、「将来の夢や目標をもっている」の項目は割合が低かった。将来に向けて前向きになれるよう、授業改善を通じて、あるいはキャリア教育の充実などを通して、これからの社会を担っていく生徒を育てていく。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度は中止(東日本大震災)、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

<質問紙調査結果の概要>

○授業改善について

→「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」という割合が徐々に増加をしている。対話や話し合い、発表を中心とした新学習指導要領を見据えた学習形態の取り組みが徐々に浸透してきている。

○家庭学習について

→「自分自身で計画をして勉強をする割合」が全国平均を上回っている。しかしながらその差の幅が年々縮小している。

○学習規律について

→「学校の規則を守っている」という生徒が97.3%に達している。しっかりと落ち着いて学習する教育環境である。

○生活習慣について

→朝食を食べている生徒の割合は、毎年全国平均付近を上下している。

<数学A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】15 (1)

(1) 1つのさいころを投げるとき、1から6までの目の出方は同様に確からしいとします。このとき、目の出方が同様に確からしいことについて、正しく述べたものを、下のアからオまでのの中から1つ選びなさい。

ア 目の出方は、1から6の順に出る。
 イ 目の出方は、どの目が出ることも同じ程度に期待される。
 ウ 6回投げるとき、1度は続けて同じ目が出るのが期待される。
 エ 6回投げるとき、1から6までのどの目も必ず1回ずつ出る。
 オ 6回投げるとき、必ず1回は1の目が出る。

	正答率	無解答率
楠葉西中学校	93.0	1.6
全国	78.0	1.8

(考察)
 「同様に確からしい」ことの意味を理解しているかどうかを問う選択式の問題である。
 単元の導入時に具体物を用いて、確率の考え方の基本の定着を図ったことがよかったと考えられる。
 無解答率は後半の問題であり、全国並みの結果となっていることから、解答する時間があまりなかったと考えられる。

<数学B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】3 (3)

(3) 康平さんは調べたことをきっかけに、水を大切にしようと思いました。そこで、家でできる節水の方法を調べて表にまとめ、それをもとに毎日の取り組みを決めました。



節水の方法と節水量

節水の方法	節水量
シャワーを流しっぱなしにしている時間を、短くする。	1分あたり12L
歯磨きで、口をゆすぐときに、水を流しっぱなしにせずに、コップに水をためる。	1回あたり5L

康平さんの取り組み

- シャワーを流しっぱなしにしている時間を、3分から5分間くらい短くする。
- 1日2回の歯磨きで、2回ともコップに水をためる。

シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの、1日あたりの節水量を b L とするとき、康平さんの取り組みによる1日あたりの節水量は、次の式で表すことができます。

$$b = 12a + 5 \times 2$$

康平さんの取り組みを行うとしたら、1日あたりの節水量がどのくらいになるかを、上の式をもとに考えます。
 a の変域を $3 \leq a \leq 5$ とするとき、 b の変域を求めなさい。

	正答率	無解答率
楠葉西中学校	54.0	12.8
全国	43.2	17.5

(考察)
 数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができるかどうかを問う短答式の問題である。
 全国に比べて、問題文の中から必要な情報を取り出し、問題解決に生かす力がついていることがわかる。
 また、変域を求めるために必要な代入などのしかたを理解している生徒が多い。

【課題】11 (2)

(2) 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	7	5	3	1	-1	-3	-5	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

	正答率	無解答率
楠葉西中学校	49.2	1.6
全国	56.0	1.7

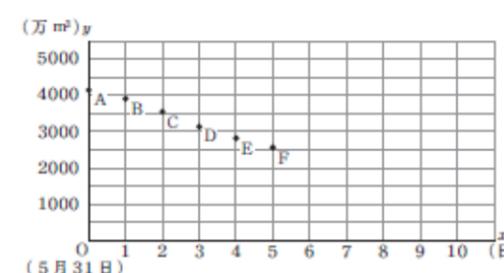
(考察)
 与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解しているかどうかを問う選択式の問題である。
 無解答率は全国とほぼ大差ないのがわかるが、正答率が低い。
 選択式の問題であるので、数値を注意深く見ることと、知識・理解として変化の割合について理解をすることが必要である。

【課題】3 (2)

3 康平さんは、ダムの貯水量が減ってきており、水不足の心配があることを新聞で知りました。そこで、新聞に載っていたダムについて、毎日の同時刻の貯水量を調べました。そして、5月31日から x 日後のダムの貯水量を y 万 m^3 とし、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

調べた結果

5月31日から経過した日数と貯水量						
経過した日数 x (日)	0	1	2	3	4	5
貯水量 y (万 m^3)	4140	3920	3540	3140	2820	2570



(2) 康平さんは、このダムの貯水量が1500万 m^3 より少なくなると水不足への対策がとられることを知り、それがいつになるのかを予測することにしました。
 そこで、調べた結果のグラフにおいて、点Aから点Fまでの点が一直線上にあるとし、貯水量がそのまま一定の割合で減少すると仮定して考えることにしました。
 このとき、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明しなさい。ただし、実際に日数を求める必要はありません。

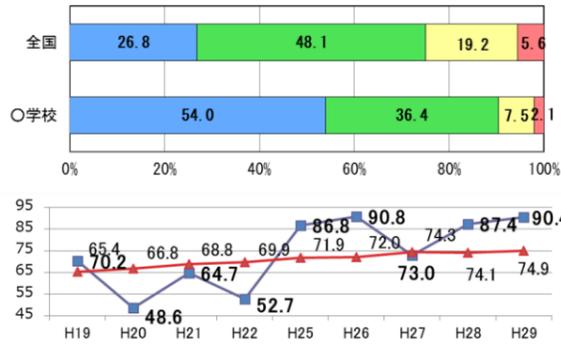
	正答率	無解答率
楠葉西中学校	11.8	33.7
全国	18.4	33.4

(考察)
 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを問う記述式の問題である。
 ほかの文章表記で答える問題と同じく、言葉で説明するためにはデータの特徴を的確に捉え、整理し順序だて記述していくことが必要である。このため、正答率がかなり低く、無解答率もやや高い。論理的な説明はどのようなものかを知り、事象を数学的用語を用い、自分の言葉で的確に説明する機会をつくる必要がある。

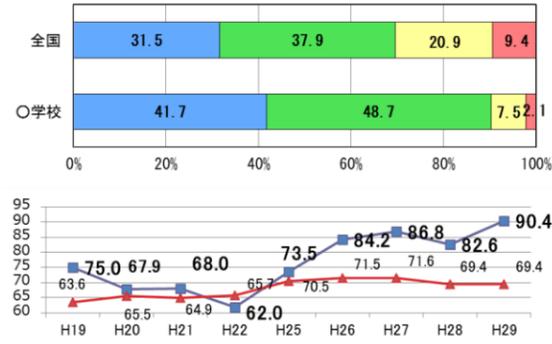
質問紙調査について

【成果のあった項目】

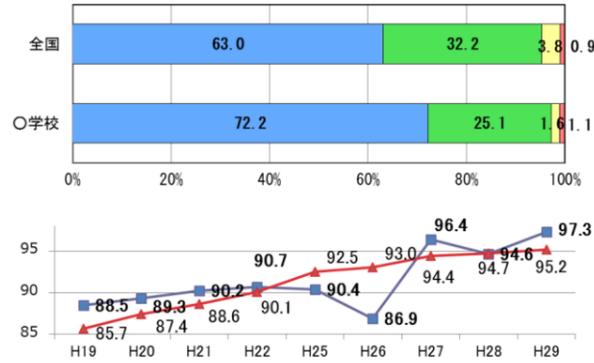
国語の授業の内容はよくわかる



数学の授業の内容はよく分かる



学校の規則を守っている



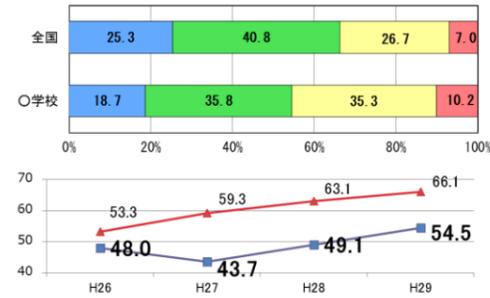
(考察)

学校の規則を守っているという項目が 100% 近くあった。落ち着いた環境で学習することが、学力を伸ばす基本で、それが実現できている。

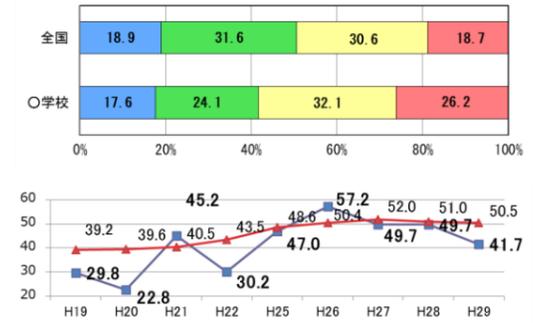
また、学力テストの調査教科である「国語」「数学」についても 90%以上の生徒がよく分かる」と答えており、学校の取り組みとして研究授業を精力的に行い授業改善の取り組みを行っていることも大いに関係していると思われる。

【課題が残った項目】

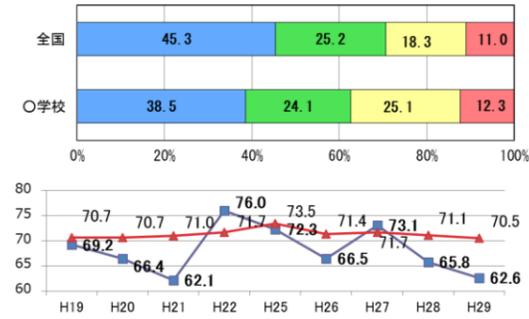
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



学校の授業の復習をしている



将来の夢や目標を持っている



自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



(考察)

上の4項目については、いずれも全国平均を下回っている。授業の振り返りや発表については、授業改善の取り組みがまだ本年度から本格的に始まったところであり、今後更に充実させていく必要がある。

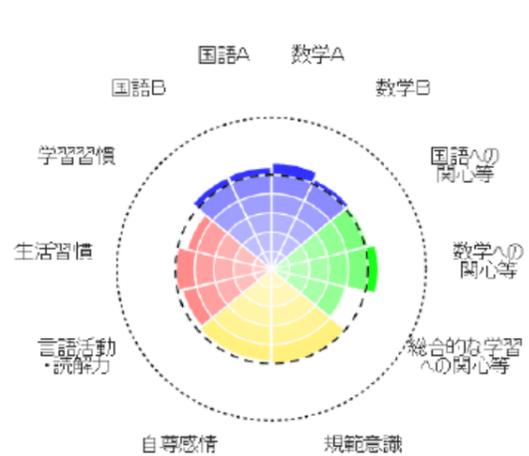
これからの進捗を期待したい。

将来の夢や目標の項目が低く、授業改善に加えて、キャリア教育の充実も必要である。

また、復習の項目も今年はかなり下回っているので、家庭学習ブックの取り組みを通じて、家庭学習の充実を図っていく。

質問紙調査の結果集約

生徒質問紙 (全国基準)



<平成29年度調査の領域名と生徒質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	中学校生徒質問紙対応領域・項目番号
I	教科学力	国語A
		数学A
		国語B
		数学B
II	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等 (71)~(78)
		数学への関心等 (80)~(89)
		総合的な学習への関心等 (56)
III	規範意識・自尊感情	規範意識 (51)~(55)
		自尊感情 (4)~(6) (10)
IV	学習の基盤となる活動・習慣	言語活動・読解力 (7)~(9) (38) (58)~(62) (66)~(70)
		生活習慣 (1)~(3)
		学習習慣 (31)~(34)

質問項目については、国立教育政策研究所ホームページ「平成29年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」(<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>)を参照してください。

分析結果を踏まえて、今後の本校の取り組みについて

平成 32 年から、小学校を始めに中学校・高等学校で実施される新学習指導要領においては、育成すべき資質・能力を、学習する子どもの視点に立ち、(1)「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」(2)「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」(3)「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」以上に示す、三つの柱で整理しています。

このため学校教育には「生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにする」ことができるよう、「授業の工夫・改善を重ねていくこと」が求められています。

具体的には、

- ・「**主体的な学び**」：学ぶことに興味や関心を持ち「主体的な学び」が実現できているか。
- ・「**対話的な学び**」：子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ・「**深い学び**」：習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

以上の 3 つを実現する授業改善が必要です。

教師の一方向の説明を聞き、発問に答え、記憶力重視のテストで満点を取るような教育とは、全く違う姿がここにはあります。変化の激しい時代や社会に対応していくために必要な能力・資質を育む教育の実現が急務となっています。象徴的な改革として、平成 32 年度から実施される「大学入学共通テスト」では「考えをまとめ、表現する力」「多くの情報の中から必要なものを選択・判断し、見通しを立て解決する力、学んだことを実生活に即した場面で活用する力」をはかるために記述式問題が導入されます。

以上のことから本校においてもその実現に向けた教育をおこなってまいります。

(1) 授業改善について

本年度から、本格的に授業改善に取り組んでおり、「めあて」「ながれ」「ふりかえり」シートを明示しながら授業をおこなっています。教師主導の知識定着型の一斉授業から、生徒主体の思考探求型の授業へと移行する様、試行錯誤しながら研究しています。

「四人班」を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、今年度は 1 学期に引き続き、2 学期も 2 回の校内研究授業に取り組み、指導方法の研究を進めています。

さらに、授業交流週間を設け 1 学期はお互いの授業を参観し、授業交流シートで指導方法の見直しをおこなってきました。2 学期以降はこれに加えて、授業をビデオ撮影し教科部会で教材や思考探求型の授業の研究をおこなってまいります。

(2) 学習規律について

学校の規則、決まりを守れている生徒が多く、学習規律についても概ね守れており、落ち着いて授業ができています。朝の読書の時間も生徒が前向きに読書に取り組んでいます。

平成 1 8 年度よりノーチャイム制を導入しており、全校生徒に定着しています。今年入学した 1 年生も、時計を見て自主的に行動ができるように指導した結果、1 年生の多くも守れるようになってきています。

また、ユニバーサルデザインの観点から机や椅子に硬式テニスボールをつけて消音をするという取り組みや、教室の掲示物をはじめ学習環境の改善も引き続きおこなってまいります。

(3) 家庭学習について

以前より各教科で宿題を出し、家庭での復習を促しています。加えて本年度より「家庭学習ブック」(注 1)を作成し、各学年で取り組んでいます。1 日 1 頁ずつ各家庭で学習したブックを毎日提出し教師がチェックをおこなっています。来年度さらに「学習習慣の定着」と「自学自習力」をつけるために、内容について今年度中に検討し改善してまいります。

また、保護者の方にもさらなる協力を求め、家庭学習の定着と向上を図ります。

(注 1)「家庭学習ブック」: 学校で作成した 5 教科の問題集